



Cisco WAE Live のインストール

ここでは、次の内容について説明します。

- [WAE Live イメージの確認 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco WAE Live のインストール \(2 ページ\)](#)
- [Cisco WAE Live 7.1.x から Cisco WAE Live 7.6.0 へのアップグレード \(3 ページ\)](#)
- [WAE 6.4.10 以降の Live データの WAE Live 7.1.x への移行 \(4 ページ\)](#)
- [Cisco WAE Live データストア \(8 ページ\)](#)
- [Cisco WAE Live ライセンスのインストール \(15 ページ\)](#)
- [認証失敗エラーのトラブルシューティング \(16 ページ\)](#)

WAE Live イメージの確認

ステップ 1 [Cisco ダウンロード ソフトウェア](#) サイトから、Cisco WAE Live 7.6.0 ソフトウェアパッケージをダウンロードします。

ステップ 2 証明書とデジタル署名は両方ともダウンロードされたファイル (WAE-Live-7.6.0-Linux_x86-64.signed.bin) に組み込まれています。

ステップ 3 自己解凍型の署名付きバイナリを実行します。実行するとリリースバイナリが抽出され、署名ファイルを使用して検証されます。

署名済みイメージの検証

```
[admin@wae-vm-21 workspace.signed]$ ./WAE-Live-7.6.0-Linux_x86-64.signed.bin
Unpacking...
Verifying signature...
Downloading CA certificate from http://www.cisco.com/security/pki/certs/crcam2.cer ...
Successfully downloaded and verified crcam2.cer.
Downloading SubCA certificate from http://www.cisco.com/security/pki/certs/innerspace.cer ...
Successfully downloaded and verified innerspace.cer.
Successfully verified root, subca and end-entity certificate chain.
Successfully fetched a public key from WAE-CCO_RELEASE.cer.
Successfully verified the signature of WAE-Live-7.6.0-Linux_x86-64.bin using WAE-CCO_RELEASE.cer
```

ステップ 4 生成された WAE-Live-7.6.0-Linux_x86-64.bin は、WAE の Linux インストーラです。

Cisco WAE Live のインストール

始める前に

- Cisco WAE Live は、Cisco WAE 7.6.0 サーバソフトウェアがインストールされているのと同じマシンにはインストールできません。
- すべての Cisco WAE Live サーバ要件が満たされていることを確認します ([WAE Live の要件](#)を参照してください)。
- Cisco WAE Live をルートユーザーとしてインストールしないでください。
- サーバに Cisco WAE 7.6.0 Live ライセンスがあることを確認します。
- Java 11 がシステムにインストールされており、`JAVA_HOME` 環境変数が `jdk-11.0` を指していることを確認してください。
- サーバの Automatic Update of Date and Time (日付と時刻の自動更新) を有効にし、Date and Time (日付と時刻) の形式を 24 時間表示に選択します。NTP サーバを使用する場合、この設定は必要ありません。
- WAE Live は `$CARIDEN_ROOT/software/live` にインストールされています。
例: `/opt/wae/software/live` または `/opt/cariden/software/live`。
- Cisco WAE Live 6.4.9 以前のデータを移行する場合は、最初に Cisco WAE Live 6.4.10 にアップグレードしてください。次に、Cisco WAE Live 7.6.0 のインストールを求めるプロンプトが表示されたときに、Cisco WAE Live 6.4.x で使用したのと同じインストールディレクトリを入力します。たとえば、Cisco WAE Live 6.4.x で `$CARIDEN_ROOT` が `/opt/cariden` として定義されている場合、Cisco WAE 7.6.0 の `$CARIDEN_ROOT` も同様に `/opt/cariden` として定義されていることを確認します。

ステップ 1 [Cisco ダウンロード ソフトウェア](#) サイトから、Cisco WAE Live パッケージに移動してダウンロードします。

ステップ 2 サーバにログインし、Cisco WAE Live package `WAE-Live-7.6.0-Linux_x86-64.signed.bin` をローカルディレクトリにコピーして、`bash shell` を開始します。

ステップ 3 署名済みパッケージを解凍します。

```
# ./WAE-Live-7.6.0-Linux_x86-64.signed.bin
```

ステップ 4 `.bin` ファイルへの実行可能アクセスを許可します。

```
# chmod +x WAE-Live-7.6.0-Linux_x86-64.bin
```

ステップ 5 Cisco WAE Live パッケージをインストールします。

```
# bash WAE-Live-7.6.0-Linux_x86-64.bin
```

ステップ 6 プロンプトが表示されたら、`yum` コマンドを使用して必要なソフトウェアパッケージをインストールします。

ステップ 7 インストール画面の指示に従います。

ステップ 8 インストール後、環境変数と `source ~/.profile` を設定して、必要な設定を取得します。

```
# source ~/.profile
```

ステップ 9 Cisco WAE Live データストアをインストールします。詳細については、[WAE Live データストアのインストール \(8 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 10 Cisco WAE Live サービスを開始します。

```
# wae-live-start
```

(注) データストアは、Cisco WAE Live を開始する前に設定する必要があります。

ステップ 11 サポートされているブラウザのいずれかを起動し、`https://server-ip:8443` と入力します。ここでの `server-ip` は、WAE Live がインストールされているサーバーの IP アドレスです。`admin` ユーザーのデフォルトパスワードは「admin」です。`user` ユーザーのデフォルトパスワードは「user」です。最初のログイン時に、デフォルトのログイン情報を変更するように求められます。

Cisco WAE Live 7.1.x から Cisco WAE Live 7.6.0 へのアップグレード

始める前に

このアップグレードを実行するには、Cisco WAE 7.1 以降がインストールされている必要があります。Cisco WAE 6.4.x のインストールについては、[WAE 6.4.10 以降の Live データの WAE Live 7.1.x への移行 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 Web サーバーと `mld` を停止します。

```
# wae-live-stop
```

ステップ 2 Cisco WAE Live 7.6.0 をインストールします。詳細については、[Cisco WAE Live のインストール \(2 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 3 アップグレードを実行します。

```
# mld -action upgrade
```

ステップ 4 Web サーバーと `mld` を起動します。

```
# wae-live-start
```

WAE 6.4.10 以降の Live データの WAE Live 7.1.x への移行

Live 7.1 では、Live ソフトウェアを Live 6.4.10 と同じ場所にインストールします。

始める前に

- **WAE 6.4.10 以降から WAE 7.1.x にのみデータを移行できます。**以前の WAE 6.x リリースがインストールされている場合は、WAE 7.1.x のアップグレードに進む前に、少なくとも WAE 6.4.10 にアップグレードしておく必要があります。
- WAE Live 7.1.x およびデータストアは、WAE 6.4.x とは別のマシンにインストールする必要があります。インストール手順については、[Cisco WAE Live のインストール \(2 ページ\)](#) を参照してください。さらに、WAE Live 7.1.x のインストールディレクトリおよびデータストア (mld) オプションは、WAE 6.4.x のインストールに使用されたものと同じディレクトリパスおよび mld オプションを使用する必要があります。たとえば、WAE 6.4.10 が /opt/cariden にインストールされている場合、別のサーバーの /opt/cariden に WAE Live 7.1.x もインストールする必要があります。CPU、メモリ、ストレージなどの mld パラメータも同じ値にする必要があります。既存の mld パラメータを表示するには、config.xml ファイルを調べます。
- この手順を実行する前に、WAE Live 7.1.x データストアをインストールする必要があります。データストアのインストール手順については、[WAE Live データストアのインストール \(8 ページ\)](#) を参照してください。
- WAE 7.1.x にアップグレードした後も、同じ WAE 6.4.x のユーザー ID (UID) とグループ ID (GID) を引き続き使用する必要があります。

ステップ 1 WAE Live 7.1 ソフトウェアを WAE Live 6.4.10 と同じ場所にインストールします。

WAE Live 6.4.10 で CARIDEN_ROOT = /opt/cariden の場合、WAE Live 7.1 を /opt/cariden にインストールします。

Live 7.1 のライセンスが設定されていることを確認してください。

ステップ 2 WAE Live 7.1 サーバーで、WAE Live 6.4.10 と同じパラメータを使用して mld をインストールします。

例 :

パラメータ

```
-cpus  
-mem  
-storage  
-mldata  
-datastore  
-backup
```

ステップ 3 WAE Live 7.1.x サーバーから、Web サーバーを停止します。

```
embedded_web_server -action stop
```

ステップ 4 WAE Live 6.4.x Live サーバーから、次の手順を実行します。

- a) Web サーバーを停止します。

```
service wae-web-server stop
```

- b) WAE Live データストアをバックアップします。次に例を示します。

```
ml_backup -L 0
```

ステップ 5 WAE Live 7.1.x サーバーから、次の手順を実行します。

- a) WAE Live データストアをバックアップします。次に例を示します。

```
ml_backup -L 0
```

- b) `$CARIDEN_ROOT/software/mld/current/scripts/sqlhosts.ml` でパラメータを編集します。

例 :

WAE Live 6.4.x サーバーでは、`sqlhosts.ml` に次のものがあります。

```
ml_remote onsoctcp 172.131.130.112 9089
mltcp      onsoctcp 127.0.0.1      9088
ml         onipcshm 127.0.0.1      dummy
```

WAE Live 7.1.x サーバーで、`sqlhosts.ml` ファイルを次のように変更します。

```
ml_remote onsoctcp <Live71_mld_IP_address> <Live71_port>
mltcp      onsoctcp 127.0.0.1      9088
ml         onipcshm 127.0.0.1      dummy
```

ステップ 6 データストアディレクトリ (`config.xml` の属性) が同じであることを確認します。WAE 7.1.x サーバーに不足しているファイルがある場合は、`touch` コマンドを使用して同じ名前でもゼロサイズのファイルを作成し、新しく作成されたファイルのファイル許可を 600 に変更します。

例 :

WAE Live 6.4.10 サーバーで、次の手順を実行します。

```
[cariden@wodl114 archives]$ cd $CARIDEN_ROOT/software/mld/current/data/
[cariden@wodl114 data]$ ls -la

total 63591328

drwxr-xr-x  2 cariden caridenstaff      4096 Dec  5 12:55 .
drwxr-xr-x 10 cariden caridenstaff      4096 Dec  5 12:35 ..
-rw-----  1 cariden caridenstaff 2147483648 Dec  5 13:01 catdbs001
. . . . .
-rw-----  1 cariden caridenstaff 4294967296 Dec  5 14:31 sbpace000
-rw-----  1 cariden caridenstaff 2147483648 Dec  5 14:54 tempdbs000
-rw-----  1 cariden caridenstaff 2147483648 Dec  5 14:54 tempdbs001
-rw-----  1 cariden caridenstaff 4294967296 Dec  5 14:54 tsdbs000
```

```
-rw----- 1 cariden caridenstaff 4294967296 Dec  5 14:54 tsdbs001
-rw----- 1 cariden caridenstaff 4294967296 Dec  5 14:31 tsdbs002000
-rw----- 1 cariden caridenstaff 4294967296 Dec  5 14:31 tsdbs002001
```

例：

WAE Live 7.1.x サーバーでは、不足しているファイルは tsdbs002000 と tsdbs002001 です。

```
$CARIDEN_ROOT/software/mld/current/data
[cariden@wod1113 data]$ ls -la
total 46814024
drwxr-xr-x  2 cariden caridenstaff    4096 Dec  5 01:56 .
drwxr-x--- 10 cariden caridenstaff     143 Dec  5 01:44 ..
-rw-----  1 cariden caridenstaff 2147483648 Dec  5 22:52 catdbs001
. . . . .
-rw-----  1 cariden caridenstaff 4294967296 Dec  5 22:50 sbospace000
-rw-----  1 cariden caridenstaff 2147483648 Dec  5 22:52 tempdbs000
-rw-----  1 cariden caridenstaff 2147483648 Dec  5 22:52 tempdbs001
-rw-----  1 cariden caridenstaff 4294967296 Dec  5 22:52 tsdbs000
-rw-----  1 cariden caridenstaff 4294967296 Dec  5 22:52 tsdbs001
```

次に、WAE Live 7.1.x が WAE Live 6.4.10 と同じ内容になるように、ゼロサイズのファイルを作成します。

```
touch tsdbs002000
touch tsdbs002001
chmod go-r tsdbs002000
chmod go-r tsdbs002001
```

ステップ 7 WAE Live 6.4.x データ ストア バックアップ ファイルを WAE Live 7.1.x サーバーにコピーします。

例：

WAE Live 6.4.x の場合

```
scp $CARIDEN_ROOT/software/mld/current/backups/fullbackups/wod1114_1_L0
user@live71:$CARIDEN_ROOT/software/mld/current/backups/fullbackups/
```

ステップ 8 コピーした WAE 6.4.x データ ストア バックアップ ファイルの名前を WAE 7.1.x バックアップファイルに変更します。

例：

WAE Live 7.1.x バックアップファイルの名前が wod1113_1_L0 である場合は、

```
mv $CARIDEN_ROOT/software/mld/current/backups/fullbackups/wod1114_1_L0
$CARIDEN_ROOT/software/mld/current/backups/fullbackups/wod1113_1_L0
```

ステップ 9 WAE 7.1.x mld を停止し、データストアのバックアップを復元します。

```
mld -action stop
ml_restore -directory $CARIDEN_ROOT/software/mld/current/backups/fullbackups
```

ステップ 10 健全性チェックを実行します。このプロセスにはしばらく時間がかかる場合があります。

```
mld -sanity all
```

ステップ 11 mld を再起動します。

```
mld -action restart
```

ステップ 12 WAE Live 6.4.x サーバーから、次の手順を実行します。

a) config.xml ファイルをチェックして、次の属性が特定のディレクトリに設定されているかどうかを確認します。設定されていない場合、その属性は MLData 属性の下で指定され、デフォルトのパスは \$CARIDEN_ROOT/data/mldata/ です。

- AppData
- バックアップ (Backup)
- Map.ArchivePath
- ReportData

これらの属性が設定されている場合は、それぞれのディレクトリから WAE Live 7.1.x サーバーの同じディレクトリにデータをコピーします。

b) 上記の属性が設定されていない場合は、tar コマンドを使用してそれぞれのディレクトリをすべてパックし、mldata.tar を WAE Live 7.1.x サーバーの同じディレクトリにコピーします。

例：

```
tar -cvf mldata.tar appdata/ archives/ customdata/ jobs/ plans/ reports/
```

mldata.tar を WAE Live 7.1.x サーバーにコピーします。

```
scp mldata.tar cariden@wod1113:$CARIDEN_ROOT/data/mldata/
```

WAE Live 7.1.x サーバーで、MLdata プロパティ値がある場所に移動します。次に例を示します。

```
cd $CARIDEN_ROOT/data/mldata/
tar -xvf mldata.tar
```

ステップ 13 WAE Live 6.4.x サーバーから、次の内容を \$CARIDEN_ROOT/etc から WAE Live 7.1.x の同じパスにコピーします。

- \$CARIDEN_ROOT/etc/config/config.xml
- \$CARIDEN_ROOT/etc/matelive
- \$CARIDEN_ROOT/etc/user_manager

例：

```
# tar -cvf etc.tar config/ matelive/ user_manager/
config/
```

```

config/config.xml
config/config.xml.bak
matelive/
user_manager/
user_manager/auth.db.properties
user_manager/auth.db.script

# scp etc.tar <WAE_64x_host>:$CARIDEN_ROOT/etc/.

```

WAE Live 7.1.x サーバーから、\$CARIDEN_ROOT/etc ディレクトリをコピーします。

```

# cd $CARIDEN_ROOT/etc
# tar -xvf etc.tar

```

ステップ 14 WAE Live 7.1.x Web サーバーとデータストアを起動します。

```
wae-live-start
```

Cisco WAE Live データストア

このセクションでは、Cisco WAE Live データストアのインストール、アップグレード、バックアップ、および復元の方法について説明します。また、m1_purge ツールを使用してデータを消去する方法についても説明します。

インストール時にデフォルトが使用された場合、\$CARIDEN_HOME は /opt/cariden/software/live/current と同じです。

WAE Live データストアのインストール

次の手順では、m1d_tool を使用して Cisco WAE Live データストアをインストールする方法について説明します。m1d ツールは、m1d サーバーと空のデータストアディレクトリの両方をインストールします。

始める前に

- パフォーマンスを向上させるには、-datastore オプションで指定されたディレクトリ用に別の ext2 パーティションを作成します。
- 作成する実稼働環境のタイプを確認しておきます。



- (注)
- データストアを作成してしまうと、インストールオプション (ユーザー名を含む) の変更は難しくなります。
 - 「デモ」データストアは、パイロット用です。「デモ」で開始した場合、実稼働環境に移行する際にデータストアを再作成する必要があり、「デモ」データストア内のデータは失われます。

• `-demo` または `-storage`、`-cpu` および `-memory` オプションが必要です。mld コマンドとオプションの詳細については、[mld オプション \(9 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 WAE Live が実行されている場合は、Web サーバーを停止します。

```
# wae-live-stop
```

ステップ 2 適切な mld コマンドを入力して、データストアをインストールします。mld コマンドとオプションについては、[mld オプション \(9 ページ\)](#) を参照してください。

例 1 : インストール中にプロンプトを表示し、サイズに関する推奨事項を取得するコマンド :

```
# mld -installchk
```

例 2 : デモデータストアのサイズで mld をインストールするコマンド :

```
# mld -action install -demo true
```

例 3 : 小規模な mld サーバーを `$CARIDEN_ROOT/data/matelive` にインストールし、2 つの CPU を予約し、542 GB のディスクストレージを予約し、2.2 GB (2,200 MB) のメモリを割り当てるコマンド :

```
# mld -action install -mldata $CARIDEN_ROOT/data/matelive -cpus 2 -storage 1:1:540 -memory 200:55:2000
```

ステップ 3 mld と Web サーバーを起動します。

```
# wae-live-start
```

mld オプション

オプション	説明	デフォルト
<code>-version</code>	データストアのバージョンを表示します。	

オプション	説明	デフォルト
-action	<p>install : 新しい mld サーバーとデータストアをインストールし、mld サーバーを起動します。</p> <p>upgrade : 既存の mld サーバーを更新し、mld サーバーを起動します。</p> <p>start : mld サーバーを起動する別の方法です。</p> <p>stop : mld サーバーを停止する別の方法です。</p> <p>status : mld サーバーのステータスを表示する別の方法です。</p> <p>restart : mld サーバーを停止してから再起動する別の方法です。</p>	デフォルトのインストールディレクトリ \$CARIDEN_ROOT/software/mld/current
-installchk	インストール中に表示され、サイズに関する推奨事項を提供します。	
-action install でのみ使用 (オプションが指定されていない場合、インストールでは -installchk と同じタスクが実行されます。)		
-demo true	デモデータストアをインストールします。 (注) -demo および -storage オプションの両方が使用されている場合、-demo が優先されます。	
-storage <n:n:n>	予想されるデータストアサイズに基づいてディスクとメモリを割り当てます。<n:n:n> はデータ : インデックス : 時系列 (GB 単位) です。詳細および推奨値については、-installchk および -verbose オプションを使用してください。 (注) データストアがデモサイズより大きい場合は、-action install を使用するときこのオプションが必要です。	

オプション	説明	デフォルト
-memory <n:n:n>	データストアの要求されたメモリを割り当てます。<n:n:n>はデータ：インデックス：時系列（GB 単位）です。詳細および推奨値については、-installchk および -verbose オプションを使用してください。	
-mldata <directory>	すべてのアプリケーションデータが格納されるディレクトリを指定します。このディレクトリには、データストア、レポート出力、およびその他のアプリケーションデータが含まれます。	\$CARIDEN_ROOT/data/mldata
-datastore <directory>	データストアが初期化されるディレクトリを指定します。 このディレクトリは、一度設定すると変更できません。ただし、シンボリックリンクの使用は可能です。	\$CARIDEN_ROOT/data/mldata/datastore
-cpus <#>	データストアと mld サーバー用の CPU の数を予約します。	全 CPU の半分
-action install または -action upgrade でのみ使用します		
-mld <directory>	mld サーバーがインストールされているディレクトリを指定します。 このディレクトリは、一度設定すると変更できません。ただし、シンボリックリンクの使用は可能です。	\$CARIDEN_ROOT/software/mld/current
-backup <directory>	データストアのバックアップを保存するディレクトリを指定します。	\$CARIDEN_ROOT/data/mldata/backup

データストアのバックアップ

Cisco WAE Live は、プランファイルからの時系列派生データをバックアップします。トランザクションログや、その他の WAE Live データ（アプリケーションデータ、レポートデータなど）はバックアップされません。

バックアップに必要な容量は、インストールサイズとシステムの稼働時間によって異なります。

ベストプラクティス

- 別のディスクドライブにバックアップを実行するか、バックアップの完了後に別の物理デバイスにバックアップをコピーします。
- トラフィックのピーク時間外にバックアップを実行します。
- mld サーバーとデータストアを最初にインストールするときに、別の物理ディスクにバックアップディレクトリを設定します。この設定により、すべてのバックアップのデフォルトのバックアップディレクトリが設定されます。

```
mld -action install -backup <backup_directory>
```

- バックアッププロセスではデータストアのコピーが作成されますが、アプリケーションデータやレポートデータなど、他の Cisco WAE Live データはバックアップされません。したがって、ある程度定期的に、バックアップされないデータを別の物理ディスクなどの安全な場所にコピーします。
- 少なくとも週単位または月単位で完全なバックアップを実行し、その間に大量の増分バックアップを実行します。
- 手動バックアップを実行する代わりに、cron ジョブから ml_backup を呼び出します。
- スケジュールが重ならないように、一度に1つのバックアップのみを実行します。同時バックアップの実行はサポートされていません。それぞれのバックアップの間は少なくとも1時間は空けるようにしてください。完了したら、バックアップが完了したことを1時間以内に確認します。

バックアップ手順



注意 以前のmldインストールディレクトリを削除すると、すべてのデータが削除される可能性があります。現在の場所を確認するには、コマンド `mld -diag -c | egrep ROOTPATH` を入力します。

ml_backup ツールを使用すると、複数のレベルでバックアップを実行してディスク領域を節約できます。OS ファイルシステムのバックアップを使用してデータストアの復元はできません。ml_backup ツールを使用して、データストアの復元に使用する完全なバックアップを実行します。

ml_backup を実行して、いつでも手動バックアップを実行できます。ただし、バックアップレベルを初めて使用するときは、この順序でバックアップを実行する必要があります。



(注) データストアと Web サーバーの両方を実行したままにします。

シーケンス	Enter	説明
1	ml_backup または ml_backup -L 0	レベル 0：すべてをバックアップします。
2	ml_backup -L 1	レベル 1：最新のレベル 0 バックアップが実行されてからのすべてをバックアップします。
3	ml_backup -L 2	レベル 2：最新のレベル 1 バックアップが実行されてからのすべてをバックアップします。



- (注) プランファイルプロセスを頻繁に実行する大規模なシステムの場合、レベル 0 バックアップの間に使用できるレベル 1 およびレベル 2 の増分バックアップは少なくなります。レベル 1 またはレベル 2 のバックアップが利用できない場合、次のエラーが表示されます。

```
Archive failed - The existing level-0 backup for DBspace rootdbs is too old to allow any
incremental backup.
```

このエラーが表示されたら、レベル 0 バックアップを実行します。

すべてのデフォルトを使用してバックアップを実行するには、ml_backup と入力します。このツールは、デフォルトのバックアップディレクトリを使用して、完全バックアップを作成します。

- デフォルトのバックアップディレクトリを上書きするには、-directory オプションを使用します。デフォルトのバックアップディレクトリは \$CARIDEN_ROOT/data/mldata/backup です。
- 別のバックアップレベルを設定するには、-L オプションを使用します。

次の例では、バックアップディレクトリを \$CARIDEN_ROOT/data/waelive/backups に設定し、最後のレベル 0 バックアップが実行された後の新しいデータのみをバックアップします。このバックアップは、デフォルトのレベル 0 を使用して ml_backup を 1 回実行したことを前提としています。

```
ml_backup -directory /data/waelive/backups -L 1
```

データストアの復元

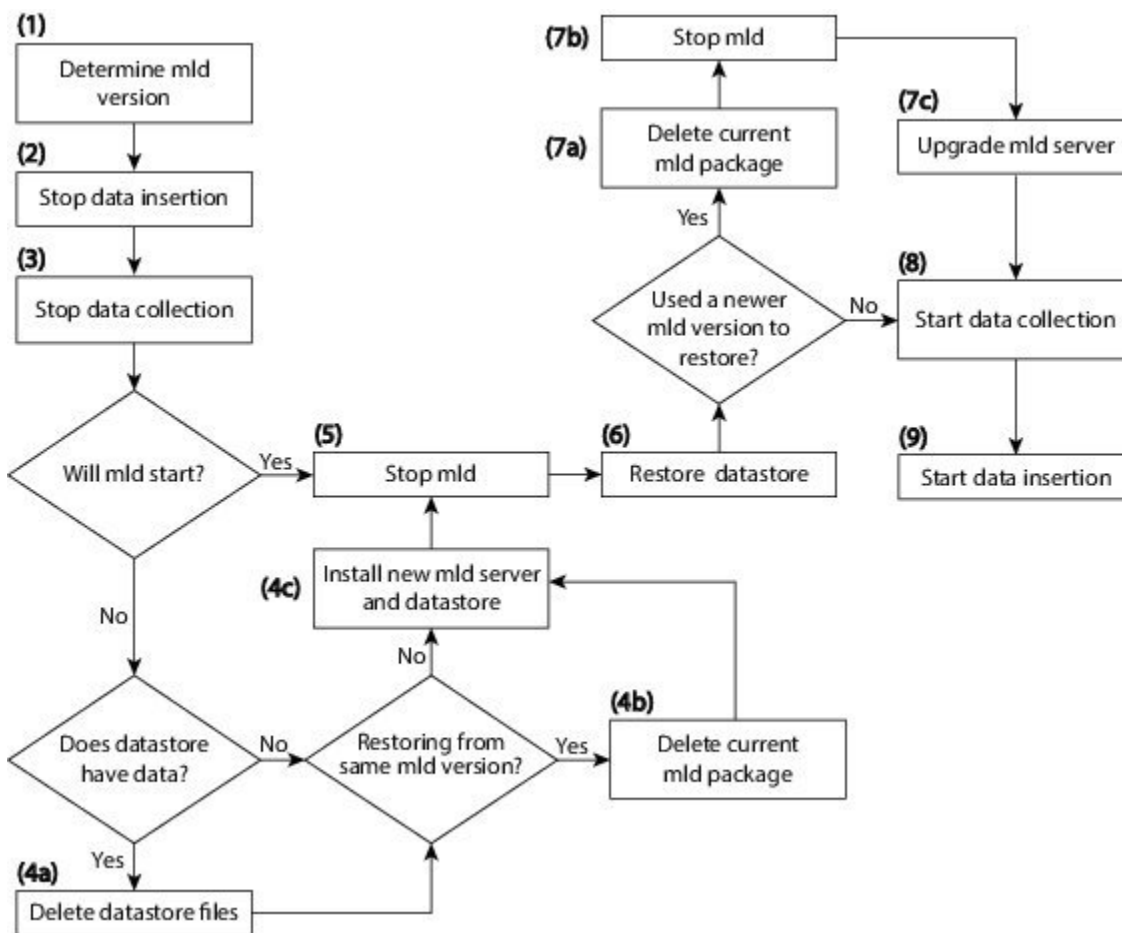
データストアの復元を試みる前に、次の点に注意してください。

- データストアを復元するには、データストアのバックアップが必要です。データストアのバックアップについては、「[データストアのバックアップ](#)」セクションを参照してください。

- 適切なディスクとディスク領域があることを確認してください。たとえば、データが破損している場合は、新しいディスクが必要になります。スペースの問題により復元する場合は、既存のディスクにさらにスペースを追加します。
- 単一のデバイス設定である場合、WAE Live データストアの復元中にデータの収集が中断されます。
- バックアップデータストアが別のデバイスにある場合は、次の前提条件を満たしていることを確認します。
 - 両方のデバイスのユーザー名とユーザー ID (uid) は同じである必要があります。
 - バックアップデータストア名は、名前の一部としてホスト名を使用します。バックアップデータストア名の、このホスト名の部分は、復元先のデバイスのホスト名と同じになるように変更する必要があります。

例：バックアップデータストア名は `akdobi.acme.com_1_L0` です。データストアが復元されているデバイスのホスト名は `akgudei.acme.com` です。この場合、バックアップデータストア名を `akgudei.acme.com_1_L0` に変更します。

図 1: データストアの復元ワークフロー



データストアからのデータの削除

ml_purge ツールは、指定されたタイムスタンプより前のすべてのデータを削除します。

始める前に

ml_purge を実行する前に、挿入が実行されていないことを確認します (ml_insert_ctl -status)。操作中に ml_purge によって作成されたロックが原因で、挿入が失敗する場合があります。スケジューラされた挿入を防ぐために、スケジューラを一時停止する必要がある場合があります (ml_insert_ctl -disable-scheduler)。

ml_purge を実行する方法は次のとおりです。

```
# ml_purge <timestamp>
```

ここでの <timestamp> は UTC 形式 (year-month-day T hour:minutes) です。次に例を示します。

```
# ml_purge 2017-01-31T00:00
```

Cisco WAE Live ライセンスのインストール

Cisco WAE は、Cisco Smart Licensing と従来のライセンスをサポートしています。ライセンスのタイプに基づいて、次のいずれかの手順を使用します。

従来のライセンスのインストール

始める前に

サーバーに Cisco WAE Live ライセンスがあることを確認します。

ステップ 1 Cisco WAE Live が実行されていない場合は、開始します。

```
# embedded_web_server -action start
```

ステップ 2 サポートされているブラウザ (https://<server_IP>:8443) で、Cisco WAE Live UI を開始します。デフォルトのユーザー名は「admin」、デフォルトのパスワードは「admin」です。

ステップ 3 [システム (System)] > [ライセンス (Licenses)] を選択します。

ステップ 4 [従来のライセンスのアップロード (Upload Traditional License)] をクリックします。

ステップ 5 [ライセンスの選択 (Select Licenses)] をクリックします。

ステップ 6 場所を参照するか、ライセンスファイルの名前 (.lic 拡張子) を入力し、[開く (Open)] をクリックします。

ステップ 7 [ライセンスのアップロード (Upload license)] をクリックします。

ステップ 8 Cisco WAE Live を再起動します。

```
# embedded_web_server -action restart
```

スマートライセンスのインストール

始める前に

WAE サーバーに Cisco スマートライセンスがあることを確認します。

ステップ 1 Cisco WAE Live が実行されていない場合は、開始します。

```
# embedded_web_server -action start
```

ステップ 2 サポートされているブラウザ (https://<server_IP>:8443) で、Cisco WAE Live UI を開始します。デフォルトのユーザー名は「admin」、デフォルトのパスワードは「admin」です。

ステップ 3 [システム (System)] > [ライセンス (Licenses)] を選択します。

ステップ 4 [スマート ソフトウェア ライセンシングの有効化 (Enable Smart Software Licensing)] をクリックします。

ステップ 5 WAE サーバー名または IP アドレス、ポート、ユーザー名、およびパスワードを入力し、[有効化 (Enable)] をクリックします。

ステップ 6 Cisco WAE Live を再起動します。

```
# embedded_web_server -action restart
```

次のタスク

Cisco WAE Live の使用を開始して、プランファイルを収集できます。Cisco WAE 7.6.0 からプランファイルを収集するには、[設定 (Settings)] > [データ送信元 (Data Source)] に移動し、[7.6.0 リモートアーカイブ (7.6.0 Remote Archive)] オプションをクリックします。適切な Cisco WAE 7.6.0 ネットワークおよびサーバーの詳細を入力します。Cisco WAE Live の使用については、[Cisco WAE Live ユーザーガイド](#)を参照してください。

認証失敗エラーのトラブルシューティング

WAE コレクタの管理者パスワードが変更された場合、パスワードの変更が原因でライセンスチェックが失敗するため、WAE Live の UI に Live コンポーネントが表示されません。この問題を解決するには、次の手順に従います。

ステップ 1 WAE サーバーの管理パスワードを変更します (新しいパスワード)。

ステップ 2 WAE Live サーバーで、新しいパスワードを使用して `license_install` ツールを実行します。

次に例を示します。


```
license_install -smart-lic-host <WAE-server-IP> -smart-lic-port 2022 -smart-lic-username admin  
-smart-lic-password <new-password>
```

- ステップ 3** WAE Live サーバーで、\$HOME/.cariden/etc に移動し、**MATE_Smart.lic** ファイルを \$CARIDEN_ROOT/etc に移動します。
- ステップ 4** WAE Live サーバーで `license_check` コマンドを実行します。
認証エラーメッセージが表示されなくなったことを確認します。
- ステップ 5** WAE Live UI から、[設定 (Settings)] > [データ送信元 (Data Source)] に移動し、パスワードを更新します。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。